

今日のキーワード 明るさが出てきた「街角景気」(日本)

「景気ウォッチャー調査」は内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象(ウォッチャー)です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2~3カ月先の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1 現状判断DIは5カ月ぶりに上昇 家計動向、企業動向、雇用ともに上昇

- 12月の「景気ウォッチャー調査」(調査期間12月25日~31日)は、「現状判断DI」が前月比+3.7ポイントの45.2ポイントと5カ月ぶりの上昇となりました。家計動向の同+4.7ポイントを筆頭に企業動向、雇用ともに上昇しました。家計動向の内訳では飲食や住宅、小売、サービスのすべての項目が上昇しました。
- 街角の声には、「10月の免税対象商品の拡大以降、外国人客向けの売上が更に急増しており、今月は前年の3.5倍となっている。クリスマス前後は低迷していた現金顧客の売上も、前年並みにまで回復しており、今月は増収となる見通しである(近畿の百貨店)」といった声が聞かれました。

ポイント2 先行き判断DIも7カ月ぶりに上昇 消費税増税延期や経済対策の効果に期待の声

- 2~3カ月先の見通しを示す「先行き判断DI」は前月比+2.7ポイントの46.7ポイントと7カ月ぶりに上昇しました。家計動向、企業動向、雇用ともに上昇しました。
- 街角の声には、「年明けから続々と予定されている食品各社の値上げ表明などから、客の財布のひもはますます固くなる(北海道のスーパー)」と円安による値上げを懸念する声が聞かれる一方、「消費税増税の先送りにより、先行きの不透明感が薄れ、消費は上向く(近畿のスーパー)」、「総選挙後の経済対策や燃料価格の下落などにより、景気の回復が期待される(九州の輸送業)」など先行きに対し明るさを感じられる声も聞かれました。



今後の展開 2015年度は輸出に加え、個人消費の回復などにより景気回復へ

■企業業績の好調さで景況感はさらに改善へ

1月後半から2月にかけて12月期の企業決算の発表が始まります。円安などを背景に企業業績は増益基調が続くと見られ、景況感のさらなる改善が期待されます。

■2015年度は1.5%の経済成長の見通し

政府の経済見通しでは、2015年度の実質経済成長率は前年度比+1.5%となる見込みです。輸出の堅調さに加えて、雇用・賃金の改善などにより個人消費の回復が期待されます。

ここもチェック!

2015年01月13日 「未(ひつじ)年生まれ」と「新成人」(日本)
2015年01月09日 最近の指標から見る日本経済(2015年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。